

平成 30 年度

大学院獣医生命科学研究科応用生命科学専攻博士前期課程
一般選抜、社会人特別選抜及び外国人留学生特別選抜

学 生 募 集 要 項

日本獣医生命科学大学

NIPPON VETERINARY AND LIFE SCIENCE
UNIVERSITY

平成 30 年度

日本獣医生命科学大学大学院獣医生命科学研究科

応用生命科学専攻博士前期課程学生募集要項

1. 教育上の目的、アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

■教育上の目的

応用生命科学専攻博士前期課程は、現在及び近未来の応用生命科学を遂行するために必要な、広い知識と技術能力を備えた動物及び食品科学の専門職、教育者並びに研究者を育成する。

■アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

応用生命科学専攻博士前期課程は、現在および近未来の応用生命科学を遂行するために必要な、広い知識と技術能力を備えた動物および食品科学の専門職、教育者ならびに研究者を育成するために、次のような人材を求めている。

- ・応用生命科学の専門分野を学ぶための十分な基礎知識と国際化に対応し得る英語力かつ高い倫理性を身につけた人
- ・動物科学または食品科学の研究を通じて、社会の発展に貢献するという意識の高い人
- ・動物科学または食品科学の専門的な研究に対し、自ら積極的に問題の設定、解決能力を修得する高い意欲がある人

2. 募 集 人 員

専 攻	募 集 人 員
応用生命科学	7 名

3. 専門分野及び研究指導分野

専門分野	研 究 指 導 分 野
細胞機能科学	実験動物学、動物生殖学、動物生体防御学
生命共生社会システム学	食料自然動物共生学、動物システム経営学、フードシステム学
動物資源生産科学	動物生産化学、動物資源利用学、動物育種学
食品基礎科学	食品化学、食品生化学、バイオテクノロジー、食品安全学
食品機能開発学	食品微生物機能学、食品物性機能学

〔注意事項〕

- ① 詳細は付表の「専門分野の概要」及び「研究指導分野一覧」を参照して下さい。
- ② 出願に際しては、希望する研究指導分野の指導教員（指導教員については付表 2 の「研究指導分野一覧」に記載）と事前に相談し、その指導を受けて下さい。

4. 出 願 資 格

次の各号の一に該当するものとする。

- (1) 大学を卒業した者及び平成 30 年 3 月 31 日までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第 104 条第 4 項の規定により学士の学位を授与された者及び平成 30 年 3 月 31 日までに授与見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者及び平成 30 年 3 月 31 日までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者及び平成 30 年 3 月 31 日までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び平成 30 年 3 月 31 日までに修了見込みの者
- (6) 専修学校の専門課程（修業年限が 4 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成 30 年 3 月 31 日までに修了見込みの者（平成 17 年 9 月 9 日文部科学省告示第 138 号）
- (7) 文部科学大臣の指定した者（昭和 28 年 2 月 7 日文部省告示第 5 号）
- (8) 学校教育法第 102 条第 2 項の規定により大学院に入学した者であって、当該者がその後入学させる本学の大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
- (9) 本学の大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22 歳に達したもの
- (10) 外国において、学校教育における 15 年の課程を修了した者であって、本学の大学院において大学の定める単位を優秀な成績で修得したと認めたもの
- (11) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 15 年の課程を修了した者であって、本学の大学院において大学の定める単位を優秀な成績で修得したと認めたもの
- (12) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 15 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者であって、本学の大学院において大学の定める単位を優秀な成績で修得したと認めたもの
- (13) 本学の大学院において第 1 号に該当する者と同等以上の学力があると認めた者

〔注意事項〕

社会人特別選抜制度で受験する場合は、上記出願資格の所定の条件を満たした後、官公庁・企業等に在職していることを必要とする。ただし、在職中でない志願者及び出願資格の(7)(8)(9)(10) (11)(12)(13)による志願者は、あらかじめ本研究科と協議のうえ、出願資格を確認する必要がある。

（※出願を希望する者は、あらかじめ志望する研究指導分野の担当教員の了解を得て下さい。）

5. 願 書 受 付 期 間

第 1 次募集	平成 29 年 9 月 1 日（金）～ 9 月 11 日（月）
第 2 次募集	平成 30 年 2 月 1 日（木）～ 2 月 13 日（火）

〔注意事項〕 窓口受付時間：平日（月曜～金曜）午前 9 時から午後 5 時まで
ただし、日本獣医生命科学大学入試日 2 月 5 日及び 6 日を除く。

6. 出 願 手 続 等

- (1) 出願書類は一括して、検定料 20,000 円（現金又は郵便為替）を添え、本学大学院課へ提出して下さい。
- (2) 出願書類等

出 願 書 類 等		摘 要	提出部数
1	入 学 願 書	本学所定用紙	1 部
2	写 真 票	本学所定用紙（カラー写真） 上半身脱帽で、出願前 6 ヶ月以内に撮影した縦 4cm ×横 3cm の裏に氏名を記入して、全面糊付けして下さい。	1 部
3	受 験 票	本学所定用紙	1 部
4	卒業（見込）証明書等	出身大学卒業（見込）証明書	1 部
5	成 績 証 明 書	出身大学の成績証明書。なお、修士課程等修了（見込）者は大学院の成績証明書も提出して下さい。また、外国語の場合は必ず日本語の訳文を添付して下さい。	1 部
6	履 歴 書	本学所定用紙 写真については、カラー写真で上半身脱帽、出願前 6 ヶ月以内に撮影した縦 4 cm×横 3cm の裏に氏名を記入して全面糊付けして下さい。学歴記入の欄については、高等学校入学から記入して下さい。	1 部
7	志 望 理 由 書	本学所定用紙 大学院で勉強・研究を行いたいと考えた動機及び目的を記載したもの。	1 部
8	業績報告書又は小論文 (社会人・外国人留学生 特別選抜のみ提出)	本学所定用紙 小論文においては A4 判にて、1,000 文字程度にまとめて下さい。また、英文においては 500 語程度でまとめて下さい。	1 部
9	指 導 承 諾 書	本学所定用紙 本学の指導教員が直接記入のうえ厳封したもの。	1 部
10	※社会人入学推薦書 (社会人特別選抜のみ提出)	本学所定用紙 出身大学の指導教員又は、官公庁、企業等の直接の指導者が作成したもの。	1 部

※印は官公庁、企業等に在職のまま入学しようとする者は、必ず提出して下さい。

〔注意事項〕

- ① 官公庁、企業等に在職のまま入学しようとする者は、入学手続きの際に、所属長又は代表者の入学承諾書を必要とするので、あらかじめ承知しておいて下さい。
- ② 外国人留学生は、上記出願書類に加え、志望理由書・住民票・日本語の学力を表す証明書・卒業論文の要旨又はこれに代わるものを提出して下さい。

7. 入学者選抜方法

(1) 一般選抜

学力(筆記)試験[英語(英文和訳 ※辞書持込不可)、専門科目(研究指導分野 1科目)]、面接、成績証明書の内容を総合して行います。

(2) 社会人特別選抜

面接、推薦書、成績証明書、業績報告書又は小論文の内容を総合して行います。

(3) 外国人留学生特別選抜

原則として、一般選抜と同じ試験を行います。ただし、特別の事情がある場合は、一般選抜と異なる試験を行うことがあります。

[注意事項]

研究指導分野の専門試験科目等、その詳細については付表の「研究指導分野一覧」を参照して下さい。

8. 試験日時及び試験場

試験日		時間		試験場
第1次	第2次			
平成29年 10月4日(水)	平成30年 3月5日(月)	学力試験	10:00~12:00	本学 第一校舎
		面接試験	14:00~	

9. 合格発表

第1次 平成29年10月6日(金) 午前10時

第2次 平成30年3月7日(水) 午前10時

本学の大学院掲示板に掲示するとともに、合格者については本人宛に通知します。なお、電話等による照会には一切応じません。

10. 入学手続

入学手続の詳細については、合格通知書とともに郵送する「入学手続方法について(博士前期課程)」を参照して下さい。

(1) 入学手続期日

第1次 平成29年10月6日(金) ~ 平成29年10月20日(金)

第2次 平成30年3月7日(水) ~ 平成30年3月16日(金)

(2) 提出書類

- ① 住民票(本籍記載のあるもの)又は住民票記載事項証明書 1部
- ② 保証書 1部
- ③ 卒業又は修了証明書 1部
- ④ 写真(カラーで上半身・脱帽正面 縦3cm×横3cm) 2葉
- ⑤ 入学承諾書(社会人特別選抜制度による入学者のみ提出) 1部

(3) 納入金

- (イ) 入学金 200,000円(本学出身者は免除)
- (ロ) 授業料 680,000円
- (ハ) 実習費 150,000円
- (ニ) 厚生福利費 10,000円(初年度のみ)

[注意事項]

納入金は、原則として年額を一括納入することとします。ただし、授業料及び実習費は、前期、後期の2期に分けて納入することができます。

11. 入 学 辞 退

入学辞退による授業料等納入金の返還について

入学手続を完了した後に入学を辞退する場合は、入学金を除く納入金を返還します。

ただし、入学辞退による納入金の返還請求期限は、平成 30 年 3 月 31 日（土）午後 4 時までとします。

12. 奨 学 金 制 度 等

(1) 大学院アシスタントシップ（ティーチングアシスタント）制度があります。（審査あり）

平成 29 年度採用実績 11 名

(2) 大学院学生に対する日本学生支援機構の奨学金制度があります。（審査あり）

13. 個人情報について

日本獣医生命科学大学は、本学に対する入学試験関連資料の請求や進学説明会等におけるアンケート等の回答において入手した氏名・住所等の個人情報については、大学案内・入学試験要項・その他関連資料等の発送や本学の入学試験関連データの収集ならびに検討資料作成のために利用します。

また、入学試験出願に際しての氏名・住所・学業成績その他の個人情報については、本学入学試験実施に際しての資料作成・可否の判定・入試統計資料の作成等、出願から入学手続き、新年度の準備に至る作業を行うために利用します。

これらについては、一部、本学より、正当な利用目的の範囲内において個人情報に係る業務の処理を学外者に委託することがありますので、あらかじめご了承ください。本学は、この業務委託先とは個人情報の保護に関する契約を締結し、業務委託先に対して適切な管理を行います。

本学では、これら入試広報及び入学試験業務において入手した個人情報について、その利用目的以外に使用することはありません。

14. 試験会場案内

日本獣医生命科学大学（本学）

〒180-8602 東京都武蔵野市境南町 1-7-1

TEL 0422-31-4151（代表）

●JR 中央線「武蔵境」駅南口より徒歩 2 分

<http://www.nvlu.ac.jp/access/access.html/>



15. 問い合わせ先

〒180-8602 東京都武蔵野市境南町 1-7-1

日本獣医生命科学大学 大学院課入試係

TEL : 0422-31-4151（代表）

FAX : 0422-33-2094（代表）

E-mail : gakushin@nvlu.ac.jp

URL : <http://www.nvlu.ac.jp/>

獣医生命科学研究科応用生命科学専攻専門分野の概要

専門分野	研究指導分野	概要	構成教室／研究室
細胞機能科学	実験動物学 動物生殖学 動物生体防御学	動物における生命現象を、細胞機能の視点から解明する教育と研究を行なう。 研究指導 3 分野の中で、実験動物学分野においては、マウスモデルを用いて疾病を解明する教育と研究を行なう。動物生殖学分野においては哺乳動物の生殖機能の解明と生殖工学に関わる教育と研究を行なう。動物生体防御学分野においては、アレルギーなどの免疫系が関係する疾患の理解を目指した教育と研究を行なう。こうした教育研究過程において、各分野における高度な専門知識と研究手法を修得し、科学的な問題解決能力を有する人材を育成する。	実験動物学教室 動物生殖学教室 動物生体防御学教室
生命共生社会システム学	食料自然動物共生学 動物システム経営学 フードシステム学	人間の生命維持と健康福祉を向上させるために、他の多様な生命体との相互依存関係を持続的に実現する共生社会システムについて人文社会科学的方法によって教育と研究を行う。 食品安全リスクアナリシス研究やトレーサビリティシステムの開発をめざし、農業と食品産業の連携を扱う新しい研究分野であるアグリフードシステム学についての教育と研究を行う。また、農村における自然環境や野生生物との共生をめざし、有機農業や環境保全型農業による環境共生型社会システムについての教育と研究を行う。市民社会の成熟に伴って求められている伴侶動物と人間との関係論についての人文社会科学的教育と研究も行う。総合的な専門知識を有する人材を養成する。	食料自然共生経済学教室 システム経営学教室 食品経済学教室

動物資源生産科学	動物生産化学 動物資源利用学 動物育種学	産業動物の生産とその利用を中心に動物生産資源の探索、動物生産環境、動物遺伝資源について、栄養学、乳化学、生化学、育種学、管理学、生態学を中心に分子レベルから生体群レベルに至る教育と研究を行う。基礎研究によって得られた知見を応用研究に発展させ、最新技術の応用手法を修得することにより畜産業、食品産業、生命産業等に貢献し、社会のニーズに応える高度な専門知識を有する人材を養成する。	動物生産化学教室 乳肉利用学教室 動物遺伝育種学教室
食品基礎科学	食品化学 食品生化学 バイオテクノロジー 食品安全学	食資源の成分科学に関する高度な知識を修得させるとともに、食品の調理・加工・貯蔵条件下における化学的、生化学的成分変化について、風味形成や食品の安全性および高機能食品開発の視点に立脚した教育および研究指導を行う。また、遺伝子工学、タンパク質工学、応用微生物学を基盤とするバイオテクノロジー技術の研究ならびにその食品への応用を通し、先端の専門知識を有する人材を養成する。	食品化学教室 農産食品学教室 食品バイオテクノロジー教室 食品安全学教室
食品機能開発学	食品微生物機能学 食品物性機能学	食品並びにその素材が有する機能を解明し、それを安全な高機能・高品質食品の開発に応用するために必要な高度専門知識および技術を習得させる。具体的には、食品製造に使用される食品微生物の有用機能を探索し、その作用機序を解明する。さらに、高品質・高機能食品の開発に必要な食品素材の機能特性を理解し、物性改良を中心にした食品の加工技術の開発研究を行う。これらの教育・研究を通して、豊かな食生活の実現に貢献し、高度な専門知識を有する人材を養成する。	食品衛生学教室 食品工学教室

研究指導分野一覧

専門分野	研究指導分野	専門試験科目	指導教員氏名 (所属教室)	研 究 内 容
細胞機能科学	実 験 動 物 学	実 験 動 物 学	藤 平 篤 志（実験動物学教室）	摂食関連ホルモンおよびストレス反応性のホルモンに関する研究
	動 物 生 殖 学	応 用 生 殖 機 能 学	牛 島 仁（動物生殖学教室）	生殖細胞機能の動物生産への応用に関する研究
	動 物 生 体 防 御 学	動 物 生 体 防 御 学	有 村 裕（動物生体防御学教室）	アレルギーや自己免疫疾患の原因や発症機序を探る研究
生命共生社会 システム学	食 料 自 然 動 物 共 生 学	農 業 経 済 学	植 木 美 希（食料自然共生経済学教室）	食・農・自然・動物共生型社会の構築とそのシステム開発に関する研究
	動 物 シ ス テ ム 経 営 学	農 業 経 営 学	小 澤 壯 行（システム経営学教室）	畜産経営学を基礎とした効率的な産業動物生産システム構築のための実証的研究
	フ ー ド シ ス テ ム 学	食 品 経 済 学	木 村 彰 利（食品経済学教室）	農産物及び加工食品の生産・製造・流通に関する実証的研究
動物資源生産科学	動 物 生 産 化 学	動 物 生 産 化 学	太 田 能 之（動物生産化学教室）	給与・投与した栄養素の生体内での作用を遺伝情報制御、代謝および形質まで一連の流れで明らかにする。
	動 物 資 源 利 用 学	動 物 資 源 利 用 学	佐 藤 薫（乳肉利用学教室）	乳・乳製品を中心とした加工技術と成分の科学的変化に関する研究
	動 物 育 種 学	動 物 育 種 学	古 田 洋 樹（動物遺伝育種学教室）	遺伝資源利用に関する細胞・分子遺伝学的研究
食品基礎科学	食 品 化 学	食 品 化 学	松 石 昌 典（食品化学教室）	食肉を中心にした食品の香り、味、テクスチャーを構成する成分に関する研究
	食 品 生 化 学	食 品 生 化 学	中 山 勉（農産食品学教室）	植物性食品の成分分析およびその生理機能解析
	食 品 生 化 学	食 品 生 化 学	奈 良 井 朝 子（農産食品学教室）	植物性食品の機能性成分と酵素に関する生化学的研究
	バ イ オ テ ク ノ ロ ジ ー	食 品 バ イ オ テ ク ノ ロ ジ ー	渋 井 達 郎（食品バイオテクノロジー教室）	食品素材の遺伝子解析の基礎と応用に関する研究
	食 品 安 全 学	食 品 安 全 学	吉 田 充（食品安全学教室）	食品の安全性に関わる物質の分析と生理作用や動態に関する研究
食品機能開発学	食 品 微 生 物 機 能 学	食品微生物機能学	藤 澤 倫 彦（食品衛生学教室）	腸内細菌叢の構成及び機能に影響を及ぼす諸要因に関する研究
	食 品 微 生 物 機 能 学	食品微生物機能学	大 橋 雄 二（食品衛生学教室）	腸内細菌と宿主の栄養生理・免疫機能の関係
	食 品 物 性 機 能 学	食 品 工 学	小 竹 佐知子（食品工学教室）	食品の口ざわりと感覚表現